

# 運輸安全報告書

2021年度



# 安全方針

有限会社スカイオートは、輸送の安全の確保が自動車輸送事業者の社会的使命と深く認識し、社員全員に輸送の安全確保が最も重要であるという意識の徹底を図り、安全マネジメント体制の維持、継続的な改善に努めるため、次のとおり安全方針を定める。

- 1、組織、従業員が活性化する為の企業風土を構築し安全に関する知識を高め、関係法令を遵守し安全安心な輸送を図る。
- 2、安全マネジメントに関する取り組みを年度毎に策定し、PDCA サイクルを徹底することにより事故の未然防止に努める。

輸送の安全に関する計画の策定、実行、チェック、改善 (Plan Do Check Act) を確実に実施し、安全対策を不断に見直すことにより、全社員が一丸となって事業を遂行することにより、絶えず輸送の安全性の向上に努める。また、輸送の安全に関する情報については、積極的に公表する。

有限会社スカイオート  
代表取締役 舘 秀幸

## 輸送の安全に関する基本方針

以下の基本方針を掲げ、社長以下全従業員に周知徹底し、輸送の安全確保を堅持してまいります。

- ☆ 社内団結して輸送の安全を最優先に行動する。
- ☆ 法令及び交通規則を遵守し、厳正かつ忠実に職務を遂行する。
- ☆ 常に輸送の安全確保に対する問題意識を持ち、継続的に見直し改善する。

## 輸送の安全に関する目標・実施結果

当社では、安全管理体制を構築させる為に全ての事故を計上し、原因を分析して対策を講じております。2021年度の輸送の安全に関する目標と達成状況は以下の通りです。

2021年度 目標	2021年度 実施結果
1) 人身・重大事故：『ゼロ』の継続 物損事故：『ゼロ』 2) 車内事故件数『ゼロ』の継続 3) 車両故障件数『ゼロ』の継続	1) 人身事故・重大事故：0件 物損事故：1件（3月末現在304日無事故継続中） 2) 車内事故件数：0件 3) 車両故障件数：0件
4) 関係法令及び社内規程の遵守 飲酒運転根絶・薬物使用の厳禁 5) 苦情件数『ゼロ』	4) 飲酒：0件 交通法令違反：0件 薬物：0件 5) 苦情件数：0件
6) 社内安全体制の確立 ・外部関連機関指導下の実施訓練の継続 ・車両の構造の理解 ・エコドライブの推進 ・新型コロナウイルス感染防止対策	・緊急時の救命救護訓練：1回（9/15日本赤十字指導） ・車両火災消火訓練・避難誘導訓練・非常用器具使用訓練実施 ：1回（6/22矢吹消防署指導にて） ・運転技術向上講習：2回（5/13タコ壺脱出訓練） （10/12峠道走行訓練） ・バス構造の講習：1回（オーバーハング・死角・内輪差） 車両別動作特性把握・サイドミラー可動値（7/19） ・バス安全装置装備車の作動確認実走行訓練：2回 （オートブレーキ作動5/13・雪上VZC作動1/12）体験 ・雪上走行訓練：1回（1/12あだたらスキー場にて） ・ドライブレコーダーの記録動画を使用した安全運転指導強化 指導2回 7/19・11/18（外部講師指導） ・エコドライブ研修：2回（5/13・10/12） ※エコドライブ推進月間（11/1～30） ・バスジャックシュミレーション訓練 通報訓練 福島県警指導基にて（3月3日）

◆人身・重大事故は『ゼロ件』で達成できました。

今年度も新型コロナウイルス感染防止対策による「緊急事態宣言」等の影響を大きく受け、運行数が大きく減少し、昨年同様運転実務間隔も大幅に空く状況が大半となりました。そのような状況下で物損事故が1件発生した事は残念です。

この物損事故は、直径13M、道路幅5.6Mのロータリーに大型バスで無理に侵入した為、ロータリー内の庭石に車両側面を接触する自損事故でした。事故現場検証において、第一に感じたことは「何故？侵入したか？」との疑問でした。ベテラン運転手が判断ミスの為に発生したと推測される事故でした。常に、「安全確認」「ゆとりある運転」を念頭に2022年度は再度無事故達成を目指し、運転者の適正診断や健康管理に係る診断結果の観察と個別対談を強化し、運行中の「健康起因による事故の発生」防止を図るための対策を最重要課題として取り組む所存です。

◆苦情0件

社内の重点実施事項として「妨害運転」撲滅を目標に乗務員研修を実施し、運転マナーの再確認を行いました。走行中や停止時における車間距離の確保及び高速道路での過度なレーンチェンジ防止に努めました。

◆社内安全体制の確立については、国土交通省・日本バス協会等の指導指針を踏まえ「お客様の安全を第一」とし、専門家のご指導や関係機関のご指導と協力を得、合同訓練や講習会を積極的に実施しました。乗務員教育内では特に「ドライブレコーダーの記録動画を使用した安全運転」の指導項目を事故防止の重点強化実施事項として昨年度の自社事故及び自社ヒヤリハットの録画を参考に重点的に原因と回避行動について運転者が考え発表形式の講習会を実施しました。又、運転技術の向上を図るため「タコ壺切り返し」・「峠道運転」・「雪上走行訓練」等の参加型の指導教育を増加致しました。

◆エコドライブの推進

乗務員教育を通じてエコドライブの推進に関する指導教育を行い、安全運転意識の向上を図りました。特に警察庁、経済産業省、国土交通省、環境省で構成するエコドライブ普及連絡会が提唱する11月のエコドライブ推進月間では、急のつく運転は避け、車間距離を確保すること、アイドリングストップの励行による燃費の向上を意識し、実践しました。

◆新型コロナウイルス感染防止対策

今年度の最重要課題は新型コロナウイルス感染防止対策であり、「貸切りバスの感染予防対策ガイドライン」に基づき、「換気」「消毒」「乗務員の健康チェック」「マスクの着用」の各項目で貸切りバス全車両及び点呼時における対策を継続いたしました。

## 車両への対応

### ① オゾン発生装置

現在、大型バスと一部の中型車両には、オゾン発生装置を導入しております。

オゾン発生装置の設置により、感染のリスクを軽減させることができます。新型コロナウイルスにも効果があると検証されており、季節型のインフルエンザ等にも効果があると検証されております。

オゾン発生装置を導入することにより、車内において、感染しにくい環境を創造致します。



### ② 運転席飛沫感染防止用パーテーション

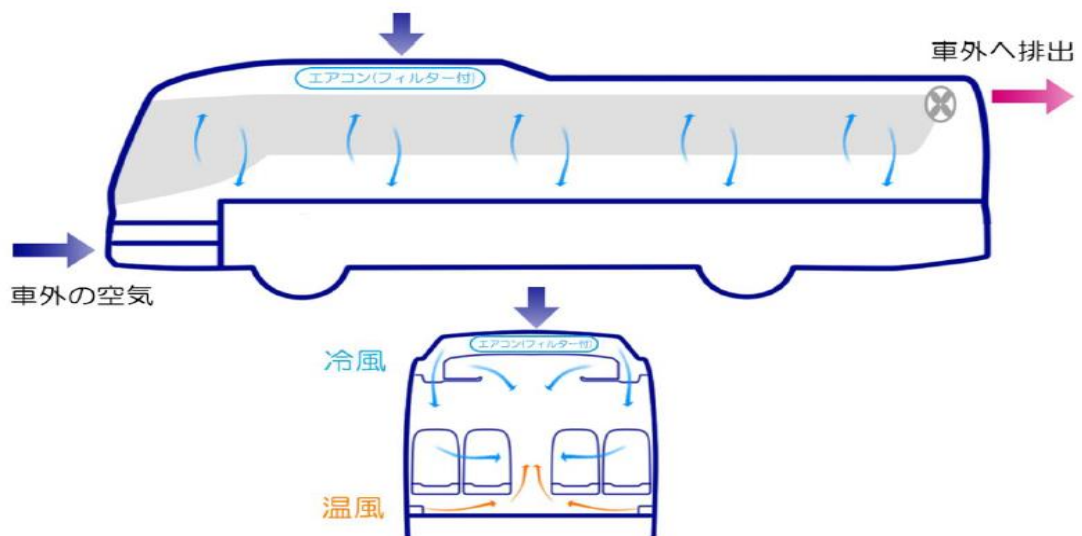
乗務員及びお客さまへの感染を防止する為、運転席を囲うように、飛沫感染防止用のパーテーションを設置しております。



### ③ 車内の換気について

弊社の大型観光バスには、内気や外気の汚れを感知し、自動で内気循環・外気導入に切り替える換気制御装置を備え付けております。走行中は空気を常に循環させることにより、清潔な空気を保ち続けます。(通常5分程度で新しい空気と入れ替わります)

又、駐車中にも可能な限り換気を行うよう取り組んでおります。





# 輸送の安全確保をする為の取り組み

## <行動計画>

- 1、安全管理(安全マネジメント)におけるPDCA サイクルの徹底
  - ア、ドライブレコーダーの録画使用による指導教育の強化。(2回/年 コロナ対策)
  - イ、車両の特性の再確認による事故防止強化。(車両の内輪差・死角・オーバーハング)
  - ウ、緊急時の対応訓練の継続。(避難誘導訓練・救命救護訓練・非常器具の使用・消火)
  - エ、道路・路面状況に適した運転方法の習得訓練。(峠道・積雪路面・降雪時の高速道路)
  - オ、健康診断及び適性診断結果に対する個別面談。
  
- 2、輸送の安全に向けた
  - ア、 苦情原因の徹底解析。
  - イ、 車両の特性の再確認による安全運行

輸送の安全確保を目的として取り組んだ各種施策事項は以下の通りです。

- 1) 安全管理 『社長同席の定例会議の開催』1回/月  
安全に対する意識をより向上させる為に、中堅管理職の指導と責任感を養うことを目的とし、安全目標に対する状況を確認して問題点改善に取り組み、乗務員研修の場において、全社員の意識の向上に取り組みました。

## ◆ 社長同席による安全定例会議 (系列会社 (有)矢吹タクシー合同実施)



(年間安全報告)



(月度会議)



月度内の安全管理状況及び社内規定の遵守状況の報告と次月に対する対策 (PDCA)

## ◆輸送の安全教育年間実施事項

### 1. 『車両の構造の理解』(2021年7月19日 9:00 ~ 12:00)

内容 車両の構造と動作、死角の違いについて、基本的なことを学びました。  
「日野自動車」と「三菱フソウ」の車両ごとの動作の違いに応じた操作方法の  
心構え、死角の把握や車両別安全確認のポイントの再確認を行いました。



### 2. 『救命救護』(2021年9月15日・16日 9:30 ~ 12:00)

講師：日本赤十字救急法指導員 柳田 政弘 様 / 松山 宏幸 様

内容 心肺蘇生法（心臓圧迫）

AED の使用法

応急処置の仕方（身近に有る物を利用した止血法/骨折の対処法等）



緊急時において、乗客に怪我人が発生した場合を想定し、その応急処置を学びました。

### 3. 『乗務員の健康管理』

(1) 保健衛生師の指導による生活習慣の改善指導 (2021年12月3日)

運行時における乗務員の健康異常（心筋梗塞・脳梗塞等）による事故防止の為  
専門家の指導を受け、日常の生活の在り方や食事法等を個人別改善に努めました。



(保健衛生師による健康相談会)

### 4. 『適性診断後の個人面談の実施』



(適齢診断及び一般診断受診後に個人面談にて行いました)

### 5. 『ドライブレコーダーの録画使用による安全運転指導』

(2021年7月19日 / 2021年11月18日)

- ① 事故発生の原因解析
- ② 自社内ヒヤリハット状況の録画検証
- ③ 危険の予測及び回避



(事故状況録画を確認しグループ別にて解析し、原因及び回避方法の意見発表)





(自社ヒヤリハットの録画検証 (グループ討議・結果発表))

## 6. 『主として運行する区域内の危険箇所及び道路状況の把握』(2021年4月13日)



(運行区域内道路問題及び走行上の危険箇所の情報交換にて危険回避)

## 7. 『運転技術向上研修会』

### (1) 峠道走行訓練 (2021年10月12日)

峠道下り走行時のブレーキの使用法

- ① フットブレーキ使用回数を減らし、排気ブレーキ・リコーダーの使用
- ② コーナー及び下り坂の状況に応じた速度の選定
- ③ 乗客に安心感を提供出来る運転を目指す



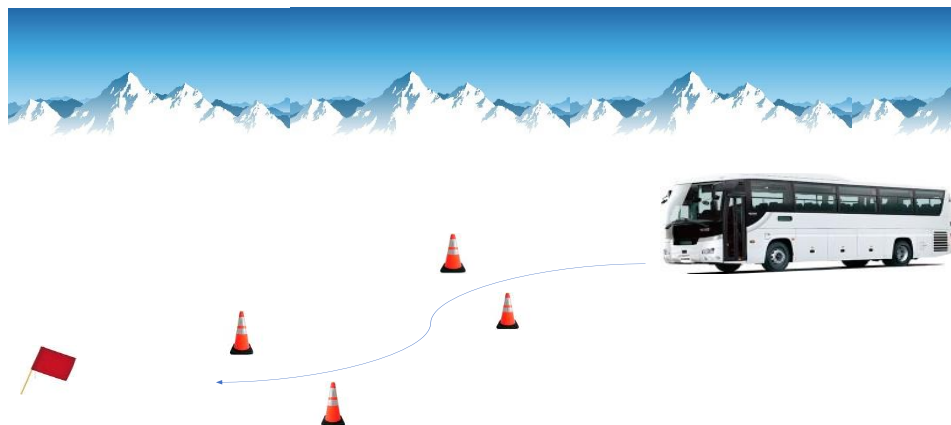
※訓練当日は、乗客役による乗り心地採点も行いました。

(2) 雪上走行訓練 (2022年1月12日 あだたら高原スキー場にて)

御協力：富士急安達太良観光株式会社

① 雪上スラローム訓練 (タイヤチェーン装着にて実施)

- ・ 走行速度 20Km 以上の場合での車両スリップ状況把握
- ・ 走行速度 15Km 以下の場合での安全走行可能速度を把握
- ・ 横滑り防止装置 (VSC) の ON / OFF 時の車両状態把握
- ・ 走行速度 20Km 急制動時のスリップ距離把握



(急操作時のスリップテスト)



(VSC装置横滑り体験)



(パイロンの角度 30度/60度)

(3) タイヤチェーン装着訓練 (Time 計測)



(降雪現場でのタイヤチェーン着脱研修)

※車種別により (三菱フソウ：エアロエース / 日野セレガ) 積雪時の登坂能力に差があることやVSC装置の安全性能力は想像以上なものであることを学びました。



(4) 降雪時の高速道路走行技能研修(2022年1月12日:東北自動車道 須賀川IC~本宮IC)

車両:三菱フソウ エアロエース



(車線変更時の注意点 / 安全速度の選択 / 車間距離の選択)

(5) タコ壺脱出訓練 矢吹交通と合同にて (2021年5月13・14日 Time 計測)



(6) バス安全装置作動体験研修 矢吹交通と合同にて (2021年5月13・14日)

・電子制御ブレーキシステム作動時の運転手の注意点 (実体験にて掌握)



8. 『非常口の開閉訓練』(2021年6月23日)



非常ドア開閉手順



非常ドアより救出訓練



縄梯子の使用方法

9. 『消火訓練』(2021年6月23日 矢吹交通と合同にて実施)

講師：矢吹消防署 次長 廣澤 貴夫 様



10. 『緊急時避難誘導訓練』(2021年6月23日 / 矢吹交通と合同にて訓練実施)

非常用具の使用 (発煙筒・三角停止表示板・消火器)・乗客の安全誘導・事務所へ通報



(非常用具の使用訓練)



(避難誘導訓練)



(緊急時通報訓練)

11. 『タイヤ交換後の増し締め点検』(2021年8月 / 12月)

御協力：ブリヂストンタイヤサービス須賀川店 様



(走行時のタイヤ脱落防止の為、200Km程度の走行後を目安に増し締め点検実施)



(安全走行の為、全車両を対象に足回りの十分な点検確認作業を行っています)



## 12. 『バスジャック対応訓練』(2022年3月3日)

有限会社つばさ交通様主催の「バスジャック訓練」に参加いたしました。

協力 田村市 市長 : 白石 高司 氏  
 福島県警察本部捜査第一課特殊犯補佐 警部 : 藤田 大樹 氏  
 自動車事故対策機構福島支所 支所長 : 伴野 晋一 氏  
 場所 田村市自然観察センター 【通報訓練】  
 滝桜駐車場 【バスジャックシュミレーション訓練】

### ① 通報訓練



(ドライバーより暗号にて事件発生通報)

(事務所にて暗号連絡受け 110 番通報)

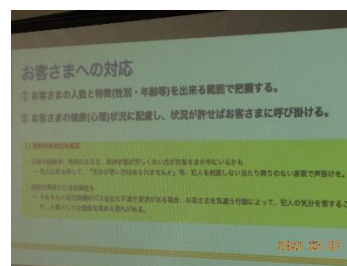
### ② バスジャックシュミレーション訓練



(事件発生からドライバーの対処方法及び暗号での事務所通報から犯人逮捕迄の訓練)

## 13. 『バスジャック対応訓練』 報告社内乗務員&内務者研修 (2022年3月7日、8日)

- ① 事件発生時の対応 三原則について
- ② 社内通報時の「暗号」再確認

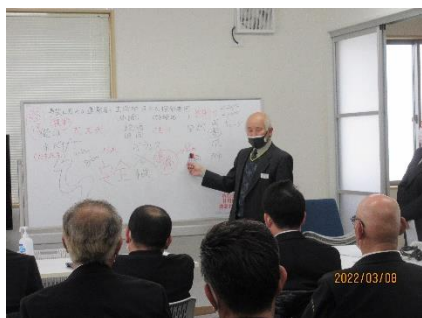


(お客様への対応：気遣いを大切にする / 犯人への対応：冷静沈着を保つ)

14. 『交通事故に関わる運転者の生理的・心理的要因』及び部地理的要因のバランス

(2022年 3月 7日)

- ・交通事故に関わった運転者の生理的要因 : 体調・睡眠・飲酒状況・服薬 等
- ・交通事故に関わった運転者の心理的要因 : 心の弱み・技術的過信・長年の経験値
- ・物理的要因 : 天候・道庁条件・車両条件



(生理的要因・心理的要因 及び 物理的要因のバランスが崩れた時に事故発生)

※生理的要因 : 自己管理 ・ 時間の管理 (会社)

心理的要因 : 満身 ・ 長年の経験 (怠慢)

15. 『月度安全会議』

出席者：代表取締役 舘 秀幸

専務取締役 舘 妙子

関連会社各営業所責任者



# 令和4年度 輸送の安全確保計画

## 【目標】

1. 人身事故・重大事故『ゼロ』の継続
2. 車内事故件数『ゼロ』の継続
3. 事故全般件数『ゼロ』
  - ①構内事故 ゼロ件
  - ②バック事故 ゼロ件
4. 飲酒運転・薬物使用の厳禁 『ゼロ』の継続
5. 関係法令に基づく社内規程の遵守
  - ①法令違反 『ゼロ』 の継続
  - ②苦情 『ゼロ』 に挑戦 (再)
6. 社内安全体制の確立
  - ①外部関連機関指導下の訓練に対する積極的参加
  - ②車両点検強化の継続 (1 か月点検：運行減少の中での車両維持)

## 【輸送の安全に関する重点計画】

1. 安全管理 (安全マネジメント) PDCA サイクルの取り組み確認と改善
  - 1) コロナ渦での人員構成対処法 (終息予測困難の中での労務改善の在り方)
  - 2) 新型コロナウイルス感染防止の為:健康管理目標 (車内消毒・手洗いの徹底)
  - 3) 健康診断結果に対する個別面談 (健康に起因する事故防止)
2. 輸送の安全に向けた教育の年間計画を作成し、実施いたします
  - 1) ドライブレコーダー録画参照による乗務員指導 (乗務員研修及び個人指導 4 回/年)
  - 2) 路面状況に適した安全運転方法の訓練 (夏・冬半期毎 1 回/人)
  - 3) 緊急時対応訓練 (救命救護・避難誘導・消火、非常用用具の使用法 年 1 回)
  - 4) 車両の特性の掌握による事故防止強化 (オーバーハング・内輪差・死角把握)
  - 5) ドライバーの体調及び精神的コンサルティング (半期毎 1 回)
  - 6) 事故惹起者への指導 (原因追及と回避方法の研究・随時)
  - 7) 外部講習受講にて乗務員の知識習得及び意識改善 (NASVA 指定)
  - 8) 苦情報告と指導 (発生の場合都度)
3. 関係法令及び社内規定の遵守
  - 1) 交替運転手の配置基準 (時間の掌握)
  - 2) 道路運行法の再確認

# 安全マネジメント実施計画（2022年度）

## ①事業用自動車を運転する心構え ②運行の安全及び旅客の安全を確保するための基本事項：基本毎月実施

期日		指導時間	実施内容	外部講師
4月	③自動車と旅客の安全を確保する為遵守すべき事項 ⑥主として運行する路線又は運行区域の交通状況の把握 ⑧運転者の適性に応じた安全運転 ①事業用自動車を運転する心構え（法規編）	180分	※前年度の事故状況報告と原因追及及び対策 ※通学路の状況とその検証（幼児・学童等の安全確保） ※運転技術習得（バック時の注意点） ※労基法（改善基準告示）・道路交通法	自社
5月	④乗車中の乗客の安全確保とする為遵守すべき事項 ⑧運転者の適性に応じた安全運転 ⑬安全装置を備えた貸切バスの適切な運転方法 ①事業用自動車を運転する心構え	180分	※シートベルトの重要性・急の付く運転の禁止 ※運転技術習得 / タコ壺脱出訓練 ※貸切バスの安全装置作動時の運転方法習得 ※グリーン経営（年度計画）	タコ壺訓練 路上訓練
6月	④乗車中の乗客の安全確保とする為遵守すべき事項 ⑤乗降時の安全確保 ⑫非常用器具・非常口・消火器の使用	180分	※緊急時の対応策・通報訓練・避難誘導訓練 ※乗降時での安全確保（車内の安全・車外での安全確保） ※非常口開閉訓練・消火器の使用法	消防署
7月	⑦危険の予測及び回避 ⑩健康管理の重要性 ⑪異常気象時の対応 ⑭ドライブレコーダー録画を利用した安全運転指導	180分	※危険予知の例題に基づいて検証 ※健康に起因する事故と健康管理の重要性 ※異常気象時マニュアル再確認 ※社内ヒヤリハット状況報告 回避状況考査	
8月	③事業用自動車の特性 ①事業用自動車を運転する心構え	180分	※貸切バスの走行特性把握（内輪差・オーバーハング・死角） ※接客マナー基本的事項を習得（挨拶）	
9月	⑤乗降時の安全確保 ②事業用自動車と乗客の安全を確保する為遵守すべき事項 ⑧運転者の適性に応じた安全運転 ①事業用自動車を運転する心構え	180分	※乗務員・ガイドのすべき事（ドア開閉時の注意点） ※上期のヒヤリハット検証 ※峠道走行訓練（アクセル・ブレーキの使用法） ※道路交通法の基礎的知識	実走行
10月	④乗客の安全確保（救命・救護法） ①事業用自動車を運転する心構え	180分	※心臓圧迫の方法 ※AEDの使用法 ※怪我人の応急手当方法 ※グリーン経営（年度計画の状況検証）	日本赤十字社
11月	④乗客の安全確保（日常点検の重要性） ⑦危険の予測及び回避 ⑭ドライブレコーダー録画を利用した安全運転指導	180分	※車両トラブル防止が乗客の安全確保に繋がる ※危険予知の例題に基づいて検証 ※デジタルコ運行結果・車両操作上の改善点 ※ドライブレコーダー録画（ヒヤリハット・車間距離・法令遵守等）	
12月	③事業用自動車の特性 ⑨事故に関わる運転者の生理的・心理的要因	180分	※増し締め点検 ※車両の点検（季節的な点検の注意点） ※運転者の意識&体調&物理的状況とのバランスと事故	自社 事業者サービス
1月	③車両の構造上の特性 ②事業用自動車と乗客の安全を確保する為遵守すべき事項 ⑦危険の予測及び回避 ⑬安全装置を備えた貸切バスの適切な運転方法	240分	※タイヤチェーン装着 ※積雪路面の走行訓練 ※積雪及び凍結路面の状況判断と選走行速度 ※貸切バスの安全装置作動時の運転方法習得	積雪路面現場 あだたら高原駅-場



2月	⑭ドライブレコーダー録画を利用した安全運転指導 ⑦危険の予測及び回避	180分	※自社運行時のヒヤリハット検証 ※ドライブレコーダーの事故記録から（事前状況からの予測と回避）	
3月	④乗客の安全確保（バスジャック対応） ⑤乗降時の安全確保 ⑨労務関係研修（交替運転者の配置基準）	240分	※事件発生時の乗務員対応・社内暗号の使用・通報訓練 ※乗降口での安全確保についての車内アナウンスと訓練 ※交替運転手の時間報告・時間と距離	

(有)スカイオート

## 2022年度 事故防止重点実施事項

4月	春の交通安全運動参加「走行速度削減」の励行 4/6日～15日 (新入学児童、老人に対する思いやり運転)
5月	「運行経路上の危険個所周知」 (道路情報等の情報交換を密にする)
6月	「後方注意」励行 (6/1日～6/30日)
7月	車間距離確保・急制動の禁止 (飛び石・追突防止 夏の交通事故防止県民総ぐるみ運動への参加 7/16～7/25)
8月	直そう危険な習慣、悪い癖 (ながら運転防止)
9月	「峠道 安全な下り走行」 (過度なフットブレーキ使用注意)
10月	構内・駐車場での事故防止 (再度確認、バック時・前後オーバーハングの右・左)
11月	過労防止 (睡眠時間の確保)
12月	雪道走行の事故防止 (早めのブレーキ・なくそう急制動)
1月	スリップ事故防止 (積雪路面早めのチェーン装着)
2月	運行途中での車両故障撲滅 (車両整備強化)
3月	「かも知れない」運転強化 (予測運転励行・安全装備の有効活用)

(有)スカイオート